

平成21年3月期 第2四半期決算短信(非連結)

平成20年10月27日

上場会社名 株式会社アクセル
 コード番号 6730 URL <http://www.axell.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役
 四半期報告書提出予定日 平成20年11月10日

(氏名) 佐々木 譲
 (氏名) 千代 進弘
 配当支払開始予定日

TEL 03-5298-1670
 平成20年11月21日

上場取引所 JQ

(百万円未満切捨て)

1. 平成21年3月期第2四半期の業績(平成20年4月1日～平成20年9月30日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
21年3月期第2四半期	7,498	—	3,154	—	3,172	—	1,938	—
20年3月期第2四半期	4,884	31.9	2,234	26.8	2,248	27.2	1,362	26.2

	1株当たり四半期純利益		潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	
	円	銭	円	銭
21年3月期第2四半期	15,441.34		15,397.37	
20年3月期第2四半期	10,885.75		10,805.34	

(2) 財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
21年3月期第2四半期	13,951		11,517	82.6			91,634.04	
20年3月期	14,049		10,770	76.7			85,819.65	

(参考) 自己資本 21年3月期第2四半期 11,517百万円 20年3月期 10,770百万円

2. 配当の状況

(基準日)	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	年間
	円	円	円	円	円
20年3月期	—	5,000.00	—	9,500.00	14,500.00
21年3月期	—	7,500.00	—	—	—
21年3月期(予想)	—	—	—	7,500.00	15,000.00

(注)配当予想の当四半期における修正の有無 無

3. 平成21年3月期の業績予想(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円
通期	14,790	7.2	6,070	1.7	6,090	1.5	3,720	2.5	29,594.27

(注)業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

4. その他

(1) 簡便な会計処理及び四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有

[(注)詳細は、3ページ【定性的情報・財務諸表等】 4. その他をご覧ください。]

(2) 四半期財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更)に記載されるもの

① 会計基準等の改正に伴う変更 有

② ①以外の変更 無

[(注)詳細は、3ページ【定性的情報・財務諸表等】 4. その他をご覧ください。]

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	21年3月期第2四半期	125,700株	20年3月期	125,700株
② 期末自己株式数	21年3月期第2四半期	8株	20年3月期	204株
③ 期中平均株式数(四半期累計期間)	21年3月期第2四半期	125,530株	20年3月期第2四半期	125,205株

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

2. 当事業年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、「四半期財務諸表等規則」に従い四半期財務諸表を作成しております。

定性的情報・財務諸表等

1. 経営成績に関する定性的情報

当第2四半期累計期間（平成20年4月1日から平成20年9月30日まで）におけるわが国経済は、原油・穀物等の原材料価格の高騰やサブプライムローン問題等に起因した世界的金融不安等を背景として国内景気の減速傾向が鮮明なものとなり、先行き不透明な状況下での推移となりました。

また、当社が属する電気機器業界におきましても、世界的金融不安による实体经济への影響の顕現化や各種原材料価格の高騰を受けた物価指数の上昇等による個人消費の低迷等により、厳しい状況下での推移となりました。

一方、現在当事業の中心的市場である遊技機器市場（注1）につきましては、過年度における遊技機器に係る規則改正等の影響によりパチスロ機器市場における減速傾向の継続や平成20年6月に開催された洞爺湖サミットにあわせた自主的な新台導入規制等といった不透明要素は見られたものの、大型液晶表示装置を搭載したパチンコ機器の製造動向は堅調に推移したものと分析しております。

当第2四半期累計期間の業績を市場別及び製品別に分析いたしますと、遊技機器市場に向けたグラフィックスLSI（注2）製品に関しましては、前年同期間（平成19年4月1日から平成19年9月30日まで）における中核製品でありました「AG-2」シリーズから高付加価値化を実現した「AG301」への移行が着実に進展しております。一方、前年同期間に見られたパチスロ機器の入替需要が当該期間における特殊要因であったこと等に起因して前年同期比でグラフィックスLSI製品の販売数量は約3%程度減少いたしました。しかしながら、前年同期間においてグラフィックスLSI全体の30%弱であった高付加価値化製品の販売構成比が80%を超える水準まで進展しており、売上高では約33%程度の増加となりました。

また、同市場に向けたサウンドLSI（注3）製品、LED（注4）ドライバLSI製品、メモリモジュール（注5）製品等は、各製品の採用数量の増加によりいずれも前年同期間を上回る販売数量となり、各製品に係る売上高が増加しております。

更に、組み込み機器市場（注6）に向けたグラフィックスLSI製品「AG-9」シリーズも、当第2四半期累計期間において前年同期間を上回る販売数量となり、売上高が増加しております。

以上の結果、当第2四半期累計期間の売上高は7,498百万円（前年同期比53.5%増）、営業利益は3,154百万円（前年同期比41.2%増）、経常利益は3,172百万円（前年同期比41.1%増）、当四半期純利益は1,938百万円（前年同期比42.2%増）となりました。

なお、前年同期比は参考として記載しております。

- （注）1. 遊技機器市場とは、パチンコ機器及びパチスロ機器等の製造に係る市場を意味しています。
2. グラフィックスLSIとは、液晶装置等に表示を行うためのLSIを意味しています。
3. サウンドLSIとは、デジタル化された音声データを再生するためのLSIを意味しています。
4. LEDとは、Light Emitting Diodeの略称です。導電することで発光する半導体素子を意味しており、発光ダイオードとも言われています。
5. メモリモジュールとは、遊技機器の画像表示用基板に搭載される画像データを保持しておく部分の仕組みを意味しています。
6. 組み込み機器市場とは、「広義の組み込み機器の中から遊技機器を除いたその他の機器の製造に係る市場」として使用しています。

2. 財政状態に関する定性的情報

①当第2四半期末の資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期末の資産合計は、前年同四半期末との比較で3,579百万円増加となる13,951百万円（前年同期比34.5%増）となりました。主な要因は、前年同四半期末以降における事業活動の結果得られた現金及び預金の増加（2,454百万円）や高付加価値化製品への移行に伴う売掛金の増加（912百万円）等によるものであります。

当第2四半期末における負債合計は、前年同四半期末との比較で1,168百万円増加となる2,434百万円（前年同期比92.3%増）となりました。主な要因は、買掛金の増加（569百万円）及び事業規模の拡大に伴う未払金や未払法人税等の増加（576百万円）等によるものであります。

当第2四半期末における純資産合計は、前年同四半期末との比較で2,410百万円増加となる11,517百万円（前年同期比26.5%増）となりました。主な要因は、別途積立金の増加（1,400百万円）及び当第2四半期までの事業の成果を含む繰越利益剰余金の増加（760百万円）等によるものであります。

②キャッシュ・フローの状況

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期累計期間における営業活動により増加した資金は、1,588百万円となりました。

これは主に、当第2四半期累計期間における税引前四半期純利益が3,172百万円であったのに対して、法人税等の支払い（1,686百万円）があったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期累計期間における投資活動により支出した資金は、79百万円となりました。

これは主に、有形固定資産の取得(34百万円)及び無形固定資産の取得(44百万円)によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期累計期間における財務活動により支出した資金は、1,164百万円となりました。

これは主に、前事業年度に係る期末配当金の支払い(1,188百万円)によるものであります。

以上の結果、当第2四半期末の現金及び現金同等物の残高は、平成20年3月期末に比べて344百万円増加となる11,070百万円となりました。

3. 業績予想に関する定性的情報

当社平成21年3月期第2四半期累計期間を終了した現在までの遊技機器市場における当社LSI製品等の需要動向は、概ね当社が期初において想定した動きで推移したものと分析しております。

また、今後におきましても、現在までに当社が入手している当社LSI製品の需要動向等に鑑みて、概ね当社の計画に沿う推移になるものと見込んでおります。

従いまして、平成20年4月24日に公表いたしました業績予想は変更しておりません。

4. その他

(1) 簡便な会計処理及び四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

①法人税等の計上基準につきましては、法定実行税率をベースとした年間予測税率により計算しております。

②たな卸資産に関して、実地たな卸を行わず帳簿たな卸により算定しております。

(2) 四半期財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

①当事業年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、「四半期財務諸表等規則」に従い四半期財務諸表を作成しております。

②「棚卸資産の評価に関する会計基準」(企業会計基準第9号)を第1四半期会計期間から適用し、評価基準については、原価法から原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)に変更しております。この変更に伴う損益に与える影響はありません。

5. 四半期財務諸表
 (1) 四半期貸借対照表

(単位：百万円)

	当第2四半期会計期間末 (平成20年9月30日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成20年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,073	6,729
売掛金	1,825	2,314
有価証券	3,996	3,997
製品	174	154
その他	233	233
流動資産合計	13,304	13,429
固定資産		
有形固定資産	217	226
無形固定資産	202	137
投資その他の資産	227	257
固定資産合計	647	620
資産合計	13,951	14,049
負債の部		
流動負債		
買掛金	712	916
未払法人税等	1,251	1,709
その他	470	653
流動負債合計	2,434	3,279
負債合計	2,434	3,279
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,018	1,018
資本剰余金	861	861
利益剰余金	9,625	8,920
自己株式	△2	△67
株主資本合計	11,503	10,733
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	13	36
評価・換算差額等合計	13	36
純資産合計	11,517	10,770
負債純資産合計	13,951	14,049

(2) 四半期損益計算書
(第2四半期累計期間)

(単位：百万円)

	当第2四半期累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年9月30日)
売上高	7,498
売上原価	3,147
売上総利益	4,350
販売費及び一般管理費	1,196
営業利益	3,154
営業外収益	
受取利息	15
受取配当金	1
雑収入	1
営業外収益合計	18
営業外費用	
株式交付費	0
為替差損	0
固定資産除却損	0
営業外費用合計	0
経常利益	3,172
税引前四半期純利益	3,172
法人税等	1,233
四半期純利益	1,938

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	当第2四半期累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	
税引前四半期純利益	3,172
減価償却費	76
長期前払費用償却額	6
受取利息及び受取配当金	△17
売上債権の増減額 (△は増加)	488
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△19
その他の流動資産の増減額 (△は増加)	△2
仕入債務の増減額 (△は減少)	△204
その他の流動負債の増減額 (△は減少)	△160
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△84
その他	0
小計	3,258
利息及び配当金の受取額	17
法人税等の支払額	△1,686
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,588
投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形固定資産の取得による支出	△34
無形固定資産の取得による支出	△44
その他	△0
投資活動によるキャッシュ・フロー	△79
財務活動によるキャッシュ・フロー	
自己株式の処分による収入	24
配当金の支払額	△1,188
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,164
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	344
現金及び現金同等物の期首残高	10,726
現金及び現金同等物の四半期末残高	11,070

当事業年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第12号）及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第14号）を適用しております。また、「四半期財務諸表等規則」に従い四半期財務諸表を作成しております。

（4）継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

（5）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

「参考資料」

前年同四半期に係る財務諸表

(1) 中間損益計算書

区分	前中間会計期間 (自 平成19年4月1日 至 平成19年9月30日)	
	金額 (百万円)	百分比 (%)
I 売上高	4,884	100.0
II 売上原価	1,795	36.8
売上総利益	3,088	63.2
III 販売費及び一般管理費	854	17.5
営業利益	2,234	45.7
IV 営業外収益	17	0.3
V 営業外費用	2	0.0
経常利益	2,248	46.0
VI 特別損失	0	0.0
税引前中間純利益	2,248	46.0
法人税、住民税及び事業税	911	
法人税等調整額	△25	885
中間純利益		1,362
		27.9

(2) 中間キャッシュ・フロー計算書

	前中間会計期間 (自 平成19年4月1日 至 平成19年9月30日)
区分	金額 (百万円)
I 営業活動によるキャッシュ・フロー	
税引前中間純利益	2,248
減価償却費	55
長期前払費用償却額	8
受取利息及び受取配当金	△4
売上債権の増減額 (増加: △)	381
たな卸資産の増減額 (増加: △)	△49
その他流動資産の増減額 (増加: △)	△3
仕入債務の増減額 (減少: △)	△90
その他流動負債の増減額 (減少: △)	27
未払消費税等の増減額 (減少: △)	10
その他	△10
小計	2,572
利息及び配当金の受取額	15
法人税等の支払額	△782
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,806
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形固定資産の取得による支出	△42
無形固定資産の取得による支出	△23
その他	△8
投資活動によるキャッシュ・フロー	△74
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	
自己株式の処分による収入	12
自己株式の取得による支出	△662
配当金の支払額	△506
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,155
IV 現金及び現金同等物の増減額 (減少: △)	576
V 現金及び現金同等物の期首残高	8,040
VI 現金及び現金同等物の中間期末残高	8,616

6. 生産、受注及び販売の状況

(1) 生産実績

当第2四半期累計期間の生産実績は次のとおりであります。

製品区分	当第2四半期累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年9月30日)
特定用途向LSI (ASSP) (百万円)	7,450
顧客専用LSI (ASIC) (百万円)	—
合計 (百万円)	7,450

- (注) 1. 金額は販売価額によっております。
 2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。
 3. ASSPとは、Application Specific Standard Productの略。特定の応用機器、使用目的のために設計、製造されるLSIで、複数の顧客に対して販売を行うものをいいます。また、ASICとは、Application Specific Integrated Circuitの略で、特定顧客の特定の応用機器、使用目的のために設計、製造されるLSIで、開発を依頼された特定の顧客に対してのみ販売を行うものをいいます。

(2) 受注実績

当第2四半期累計期間の受注実績は次のとおりであります。

製品区分	当第2四半期累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年9月30日)	
	受注高	受注残高
特定用途向LSI (ASSP) (百万円)	8,894	5,016
顧客専用LSI (ASIC) (百万円)	—	—
合計 (百万円)	8,894	5,016

- (注) 1. 金額は販売価額によっております。
 2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(3) 販売実績

当第2四半期累計期間の販売実績は次のとおりであります。

製品区分	当第2四半期累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年9月30日)
特定用途向LSI (ASSP) (百万円)	7,498
顧客専用LSI (ASIC) (百万円)	—
合計 (百万円)	7,498

- (注) 1. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。
 2. 当第2四半期累計期間の主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合は次のとおりであります。

相手先	当第2四半期累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年9月30日)	
	金額 (百万円)	割合 (%)
緑屋電気株式会社	6,756	90.1

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

7. 最近における四半期毎の業績の推移

平成 21 年 3 月期

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

	第 1 四 半 期 20年 4 月～20 年 6 月	第 2 四 半 期 20年 7 月～20 年 9 月	第 3 四 半 期 20年 10 月～20 年 12 月	第 4 四 半 期 21 年 1 月～21 年 3 月
	百万円	百万円	百万円	百万円
売 上 高	3,307	4,191	—	—
売 上 総 利 益	1,915	2,434	—	—
営 業 利 益	1,424	1,729	—	—
経 常 利 益	1,432	1,739	—	—
税 引 前 四 半 期 純 利 益	1,432	1,739	—	—
四 半 期 純 利 益	878	1,059	—	—
1 株 当 たり 四 半 期 純 利 益	7,001 円 71 銭	8,439 円 81 銭	—	—
	第 1 四 半 期 末	第 2 四 半 期 末	第 3 四 半 期 末	第 4 四 半 期 末
	百万円	百万円	百万円	百万円
総 資 産	12,161	13,951	—	—
純 資 産	10,446	11,517	—	—
1 株 当 たり 純 資 産	83,245 円 67 銭	91,634 円 04 銭	—	—

平成 20 年 3 月期

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

	第 1 四 半 期 19年 4 月～19 年 6 月	第 2 四 半 期 19年 7 月～19 年 9 月	第 3 四 半 期 19年 10 月～19 年 12 月	第 4 四 半 期 20年 1 月～20 年 3 月
	百万円	百万円	百万円	百万円
売 上 高	2,706	2,177	3,490	5,420
売 上 総 利 益	1,723	1,365	1,988	3,141
営 業 利 益	1,310	923	1,477	2,257
経 常 利 益	1,319	929	1,486	2,262
税 引 前 四 半 期 純 利 益	1,319	929	1,486	2,261
四 半 期 純 利 益	803	559	915	1,350
1 株 当 たり 四 半 期 純 利 益	6,394 円 63 銭	4,483 円 64 銭	7,337 円 25 銭	10,775 円 23 銭
	第 1 四 半 期 末	第 2 四 半 期 末	第 3 四 半 期 末	第 4 四 半 期 末
	百万円	百万円	百万円	百万円
総 資 産	9,899	10,372	11,156	14,049
純 資 産	8,580	9,107	9,405	10,770
1 株 当 たり 純 資 産	68,805 円 21 銭	72,968 円 22 銭	75,301 円 68 銭	85,819 円 65 銭